

---

# 7号

リテス

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
7号

【Nコード】  
N0750A

【作者名】  
リテス

【あらすじ】  
雪の降った日にプロポーズされた女性の話です。

クリスマスの翌日だった。

例年より少し遅めの初雪が降った日。

街一面に少しだけ雪が積もった日曜の夜に、いつにも増して“いきなりな”チャイム。

ドアを開けると仕事で会社のはずの彼がいた。

日曜に夜遅くまで仕事があるからと、昨日のディナーの後もすぐに別れたのに。

「え？なに？どおしたの？」

彼は黙ったまま小さな箱を差し出す。  
プレゼント用のリボンも巻かれている。

あれ？今日記念日だったけ？付き合って4年。

付き合い始めたのは夏だったし、私の誕生日はまだ先。

誰か他の女の誕生日と間違えてるのかも（怒）彼が開けると言うので、怒りをグツと堪えてゆっくり開けてみる。

小さなダイヤの付いたリング。

「7号。安物だけど…。結婚してくれないか」

昨日はそんな素振り全然してなかったのに…。

・・・？。

よく見ると、玄関の前は彼の足跡でいっぱいだった。

そういえば、彼の耳が真っ赤になっている。

　　どうやらチャームを押すまでずいぶん長く玄関の前でうろつろ  
していたらしい。

　　いい気味だ。

私なんか何年待ったと思ってるんだか（笑）　　迷ってるふりをし  
てたつぷり時間をかけた後、返事をする変わりに、リングを左手の  
薬指にそつとはめた。

　　月明かりに照らされたリングはひんやりと冷たかった。

　　後で聞いた話だと、彼は雪が降ったらプロポーズするつもりだ  
っらしい。

　　ゆ、優柔不断。少し早まったかしら。

（後書き）

皆様読んで頂いてありがとうございます。感想お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0750a/>

---

7号

2011年1月5日03時26分発行